

[JP,05-073790,U]

- 1.This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
- 2.**** shows the word which can not be translated.
- 3.In the drawings, any words are not translated.

CLAIMS

[Utility model registration claim]

[Claim 1] The means for supporting of the axis of rotation characterized by to fix a top cabinet and a bottom cabinet with the axis of rotation which was equipped with a top cabinet, the main part cabinet constituted from a bottom cabinet, and the subbody cabinet which is attached free [rotation] that it should rise and fall to this main part cabinet, and has a display means at least in that inside, and attached free to the above-mentioned subbody cabinet so that the plane configuration of the sources of playback, such as a mechanism for CD and a mechanism for tapes, may carry out.

DESCRIPTION OF DRAWINGS

[Brief Description of the Drawings]

[Drawing 1] It is drawing showing the standing-up condition of the subobject cabinet of the means for supporting of the axis of rotation in the 1st example of this design.

[Drawing 2] It is the perspective diagram showing closed ***** of a ***** cabinet.

[Drawing 3] It is the cross section showing the open condition of a ***** cabinet.

[Drawing 4] It is drawing showing the standing-up condition of the means for supporting of the conventional axis of rotation.

[Drawing 5] It is the cross section showing the open condition of the conventional subobject cabinet.

[Description of Notations]

1 Main Part Cabinet

2 Lid for CD

3 Actuation Means Group

4 Lid for Tape Cassettes

5 SubObject Cabinet

5a Axis of rotation

5b Stop piece

5c Engagement piece

5d Carbon button

5e Stopper

6 Display

7a.7b Actuation means

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-73790

(43)公開日 平成5年(1993)10月8日

(51)Int.Cl.⁵

G11B 33/02

識別記号

301 Z

庁内整理番号

FI

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21)出願番号 実願平4-12609

(22)出願日 平成4年(1992)3月13日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)考案者 富士原 俊彦

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72)考案者 阪本 孝広

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(74)代理人 弁理士 小鍛治 明 (外2名)

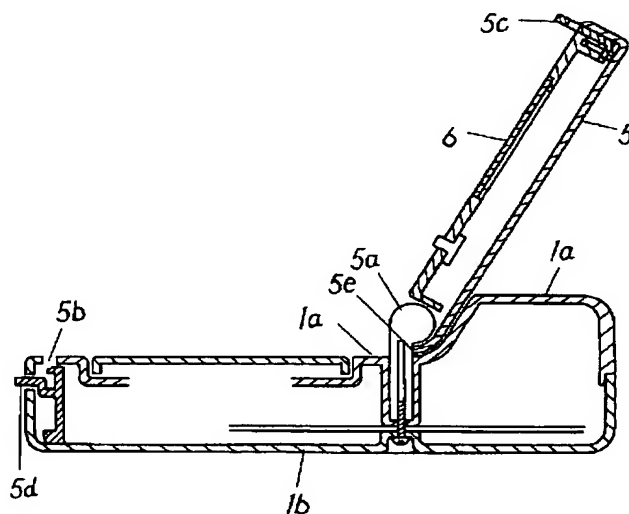
(54)【考案の名称】 回転軸の支持装置

(57)【要約】

【目的】本体キャビネットと副体キャビネットを強固に固定すると共に、係合片と係止片を正確に係合するようにした回転軸の支持装置を提供する。

【構成】少なくともCD用メカニズム及びテープ用メカニズム等の再生源を平面配置するように、上キャビネット1aと下キャビネット1bにて構成した本体キャビネット1と、この本体キャビネット1に対し起伏すべく回転自在に取りつけられその内面に少なくとも表示手段6を有する副体キャビネット5とを備え、上記副体キャビネット5に対し回転自在に取りつけた回転軸5aで上キャビネット1aと下キャビネット1bを固定するように構成したものである。

【効果】副体キャビネットを起伏する回動力を充分に加えても回転軸でビス締めされた上キャビネットが浮き上がらない様になるため商品の品位を高めることができる。また、上キャビネットと下キャビネットを回転軸でビス締めするため、係合片と係止片が正確に係合することができる。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 少なくともCD用メカニズム及びテープ用メカニズム等の再生源を平面配置するように、上キャビネットと下キャビネットにて構成した本体キャビネットと、この本体キャビネットに対し起伏すべく回動自在に取りつけられその内面に少なくとも表示手段を有する副体キャビネットとを備え、上記副体キャビネットに対し回動自在に取りつけた回転軸で上キャビネットと下キャビネットを固定したことを特徴とする回転軸の支持装置。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の第1の実施例における回転軸の支持装置の副体キャビネットの起立状態を示す図である。

【図2】 同副体キャビネットの閉伏状態を示す斜視図である。

【図3】 同副体キャビネットの開状態を示す断面図である。

2

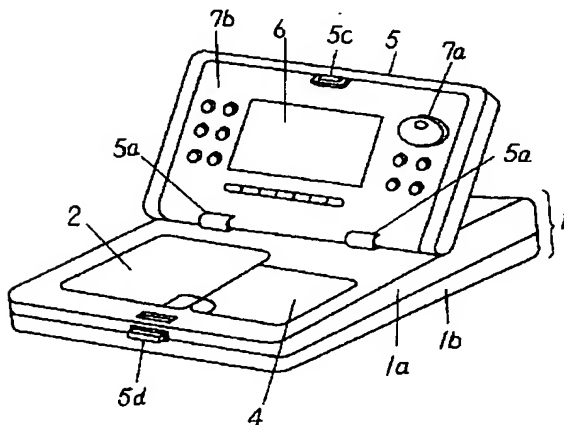
【図4】 従来の回転軸の支持装置の起立状態を示す図である。

【図5】 従来の副体キャビネットの開状態を示す断面図である。

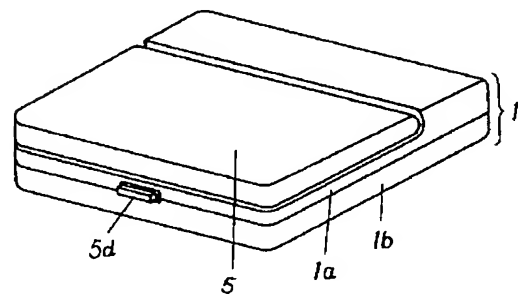
【符号の説明】

- 1 本体キャビネット
- 2 CD用蓋体
- 3 操作手段群
- 4 テープカセット用蓋体
- 10 副体キャビネット
- 5a 回転軸
- 5b 係止片
- 5c 係合片
- 5d ボタン
- 5e ストッパー
- 6 表示部
- 7a, 7b 操作手段

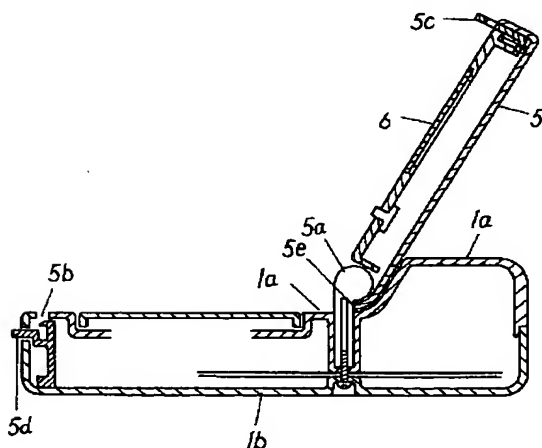
【図1】



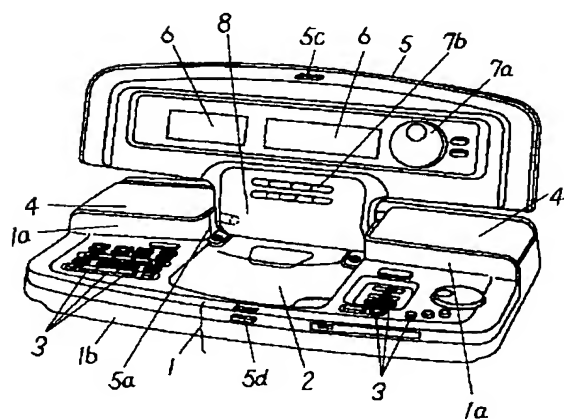
【図2】



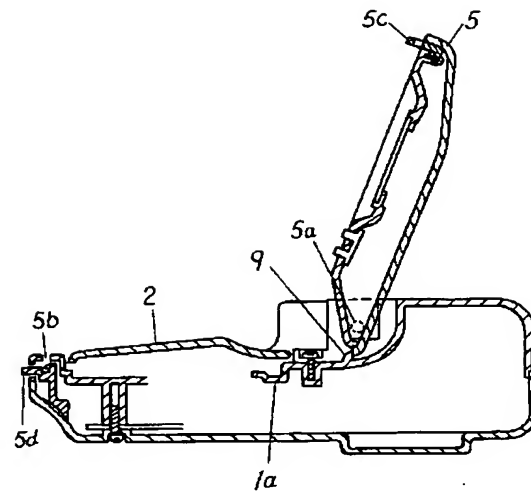
【図3】



【図4】



【図 5】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、本体キャビネットに少なくともコンパクト・ディスク（以下CDという）用メカニズム及びテープ用メカニズム等の再生源を平面配置すると共に、その表示部を本体キャビネットに対して起動自在な副体キャビネットに配置して、本体キャビネットと副体キャビネットを強固に固定するようにした回転軸の支持装置に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

近年、システムコンポの音響再生装置のコンパクト化の手段としてCD用メカニズム及びテープ用メカニズム等の再生源を平面配置するように、上キャビネットと下キャビネットにて構成した本体キャビネットと、この本体キャビネットに対し起伏すべく回動自在に取り付けられその内面に少なくとも表示手段を有する副体キャビネットとを備え、上記副体キャビネットに対し回動自在に取りつけた回転軸を上キャビネットに固定する方式の回転軸支持装置を使用している。

【0003】

以下図面を参照しながら、上述した従来の回転軸の支持装置の一例について説明する。

【0004】

図4は従来の回転軸の支持装置の開状態を示すものである。図4において本体キャビネット1は上キャビネット1a、と下キャビネット1bで構成され、そのほぼ中央部にCD用メカニズム部に装着されるCDを覆うCD用蓋体2が、当該CD用蓋体2の両側には操作手段群3が、また操作手段群3の後方にはテープメカニズムに装着されるテープカセットを覆うテープカセット用蓋体4が、それぞれ平面的に配置されている。

【0005】

5は副体キャビネットであり、上記本体キャビネット1に対し起伏すべく回動自在に取り付けられ、その内面（すなわち起立状態の正面）に表示部6と操作手

段7 a、7 bを備えている。この副体キャビネット5は、その全体構造をT字状に構成し、その中央のアーム部8下部に回動自在になるように回転軸5 aを挿通し、回転軸5 aを上キャビネット1 aにビス締めすることによって回動自在に取り付けられている。(図5に図示)

また、図5において副体キャビネット5の中央部先端に係合片5 cを設け、副体キャビネット5を閉じた時、係止片5 bによって閉状態に係止され、さらに副体キャビネット5はボタン5 dによって閉状態から開放されることとなる。その開放の付勢力はばね等により適宜構成されるものであり、上記ボタン5 dは上記副体キャビネット5に設けた係合片5 cに係止する係止片5 bを一体に設けている。

【0006】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら上記のような従来の回転軸の支持装置は、図5に示すように副体キャビネット5を起伏すべく回動すると上キャビネット1 aに設けたストッパー9に副体キャビネット5の一端が当たり全開状態となる。しかし、その回動力をさらに加えると回転軸5 aにビス締めされた上キャビネット1 aに回転力が働くことによって浮き上がる状態になるため商品の品位を損ねる結果となる。

【0007】

また、副体キャビネット5は回転軸5 aを介して上キャビネット1 aにビス締めされ、係止片5 bは下キャビネット1 bに取り付けられているため、上キャビネット1 aと下キャビネット1 bの間で取り付けずれが生じた場合、係合片5 cと係止片5 bが正確に係合しなくなるという問題点を有していた。

【0008】

本考案は、上記従来の問題点に鑑み、本体キャビネットに少なくともCD用メカニズム及びテープ用メカニズム等の再生源を平面配置すると共に、その表示部を本体キャビネットに対して起動自在な副体キャビネットに配置して、本体キャビネットと副体キャビネットを強固に固定すると共にようにし、且つ係合片と係止片を正確に係合するようにした回転軸の支持装置を提供することを目的となされたものである。

【0009】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するために本考案の回転軸の支持装置は、少なくともCD用メカニズム及びテープ用メカニズム等の再生源を平面配置するように、上キャビネットと下キャビネットにて構成した本体キャビネットと、この本体キャビネットに対し起伏すべく回動自在に取りつけられその内面に少なくとも表示手段を有する副体キャビネットとを備え、上記副体キャビネットに対し回動自在に取りつけた回転軸で上キャビネットと下キャビネットを固定するように構成したものである。

【0010】**【作用】**

本考案は上記した構成によって、副体キャビネットを起伏する回動力を充分に加えても回転軸でビス締めされた上キャビネットが浮き上がらない様になるため商品の品位を高めることとなる。

【0011】

また、上キャビネットと下キャビネットを回転軸でビス締めするため、係合片と係止片が正確に係合することとなる。

【0012】**【実施例】**

以下本考案回転軸の支持装置の実施例について、図1～図3を参照しながら詳細に説明する。

【0013】

図1において、本体キャビネット1は上キャビネット1a、と下キャビネット1bで構成され、左側にCD用メカニズム部に装着されるCDを覆うCD用蓋体2が、当該CD用蓋体2の右側にはテープメカニズムに装柱るテープカセットを覆うテープカセット用蓋体4が、それぞれ平面的に配置されている。

【0014】

5は副体キャビネットであり、上記本体キャビネット1に対し起伏すべく回動自在に取り付けられ、その内面（すなわち起立状態の正面）に表示部6と操作手

段 7 a、7 b を備えている。この副体キャビネット 5 は、その全体構造を本体キャビネット 1 と左右端及び先端が合うように構成し、その下部に回動自在になるように回転軸 5 a を挿設し、回転軸 5 a を上キャビネット 1 a と下キャビネット 1 b を介してビス締めすることによって回動自在に取り付けられている。(図 3 に図示)

また、図 3 において副体キャビネット 5 の中央部先端に係合片 5 c を設け、副体キャビネット 5 を閉じた時、係止片 5 b によって閉状態に係止され(図 2 に図示)、さらに副体キャビネット 5 はボタン 5 d によって閉状態から開放されることとなる。その開放の付勢力はばね等により適宜構成されるものであり、上記ボタン 5 d は上記副体キャビネット 5 に設けた係合片 5 c を係止する係止片 5 b を一体に設けている。

【0015】

以上のように構成された回転軸の支持装置について、以下その動作について説明する。

【0016】

副体キャビネット 5 を起伏すべくボタン 5 d を押し回動すると回転軸 5 a に設けたストッパー 5 e に副体キャビネット 5 の一端が当たり全開状態となる。その開放の付勢力は前記の様に、ばね等により適宜構成される。また副体キャビネット 5 を前記の反対方向に回動することによって閉状態にすることができる。

【0017】

以上のように本実施例によれば、副体キャビネットを起伏する回動力を充分に加えても回転軸でビス締めされた上キャビネットが浮き上がらない様になるため商品の品位を高めることとなる。

【0018】

また、上キャビネットと下キャビネットを回転軸でビス締めするため、係合片と係止片が正確に係合することとなる。

【0019】

【考案の効果】

以上のように本考案は、少なくとも C D 用メカニズム及びテープ用メカニズム

等の再生源を平面配置するように、上キャビネットと下キャビネットにて構成した本体キャビネットと、この本体キャビネットに対し起伏すべく回動自在に取り付けられその内面に少なくとも表示手段を有する副体キャビネットとを備え、上記副体キャビネットに対し回動自在に取りつけた回転軸で上キャビネットと下キャビネットを固定することによって、副体キャビネットを起伏する回動力を充分に加えても回転軸でビス締めされた上キャビネットが浮き上がらない様になるため商品の品位を高めることができる

また、上キャビネットと下キャビネットを回転軸でビス締めするため、係合片と係止片が回転軸を中心に正確に係合することができる。